

県央水戸アグリ情報

令和7年度 第2報
(令和8年1月発行)

発行:茨城県県央農林事務所経営・普及部門
(水戸地域農業改良普及センター)
Tel 029-227-1521
Fax 029-225-0955

管内における「サツマイモ基腐病」の発生と特徴及び総合防除について

サツマイモ基腐病の発生について

令和7年11月、ひたちなか市において、貯蔵中のかんしょや収穫後の残渣から計6件のサツマイモ基腐病の発生が確認されました。



県では、サツマイモ基腐病のまん延防止に万全を期すため、発生ほ場から周囲500m以内の周辺ほ場を対象地域として土壤消毒を実施したほか、11月18日には「サツマイモ基腐病に係る緊急事態宣言」を発表し、注意喚起を行いました。緊急事態宣言は、対象地域内全てのかんしょほ場の消毒が完了したこともあり、11月27日に解除しましたが、引き続き対象地域をはじめとした県内かんしょ産地での警戒を継続してまいります。

サツマイモ基腐病の特徴について

サツマイモ基腐病は、糸状菌(かび)によって引き起こされ、生育中に発生するとつるや葉が枯れ、土中のかんしょのなり首(あたま側)から褐色～暗褐色に腐敗し、周囲の株や隣接する畑へと次々と感染が拡大します。感染が拡大すると、収穫量の大幅な減少など深刻な事態につながる大変危険な病害です。サツマイモ基腐病に感染し腐敗した部分は、少しやわらかく弾力が感じられる硬さで、軟腐病(ドブ腐れ)のように軟化(グチャグチャ)して崩れることはできません。貯蔵中やほしいも加工中に疑わしい症状のかんしょを見つけた場合は、当部門までご連絡ください。



サツマイモ基腐病に感染したかんしょの表皮



サツマイモ基腐病に感染したかんしょの断面

なお、サツマイモ基腐病はかんしょや空芯菜等のヒルガオ科の植物のみに感染し、他の植物や人間には感染しません。また、サツマイモ基腐病に感染し腐敗したかんしょは、出荷やほしいも加工前に選別し廃棄されるため、流通することはありませんので、安心してほしいも・かんしょをご賞味ください。

サツマイモ基腐病の総合防除について (詳細は右下のQRコード参照)

「総合防除」とは、効果的な防除方法を組み合わせた防除技術です。以下の3つの方法を組み合わせて、病害対策を徹底しましょう。

①「持ち込まない」

健全な種いもや苗の使用、農業用資材や農機具の洗浄等により、病原菌を持ち込まないようにしましょう。

②「増やさない」

ほ場の排水対策や発病株の早期発見等により、病原菌を増やさないようにしましょう。

③「残さない」

ほ場に病原菌を残ったままだと、次作への伝染源になるため、作物残渣の持ち出しや早めの耕起により分解促進を図りましょう。



サツマイモ基腐病の特徴
及び防除方法 (県HP)

農業学園「新規ほしいも就農者を対象とした衛生管理講座」を開催

当部門では、就農後間もない農業者を対象に農業の基礎知識・技術の習得や仲間づくりを目的として、農業学園を毎年開催しています。8月22日にひたちなか市のオカベファームにおいて、ほしいもで新規就農した生産者を対象に衛生的で働きやすい加工施設の整備方法について学ぶために見学会を開催し、管内のほしいも加工者7名が参加しました。

講座の前半は、代表者から経営内容やかんしょ栽培の概要等に加え、自身が新規で就農した際に苦労した点や従業員の意識統一の方法、働きやすい職場環境づくり等について説明を受けました。

後半は、ほしいも加工場にて、加工の一連の作業を体験しました。その際、剥く時のポイントやいもの並べ方について詳しく教えていただくとともに、加工場の清掃方法や加工器具の洗浄方法について説明を受けました。

受講者からは、「自社の方向性を見つめ直す良い機会になった」、「他の加工者のほしいも加工を体験することはめったにないので、大変参考になった」等の声が聞かれ、大変有意義な講座となりました。

当部門では、今後も農業者が自身の経営に活かすことができる講座を開催し、経営の発展につながるような支援をしてまいります。



代表者から説明を受けている様子



ほしいも加工体験の様子

法人化に関する現地見学会の開催

当部門では今年度、法人化を志向する若手農業者を対象に、「法人化に関する現地見学会」を2回開催し、延べ9名の経営体が参加しました。本見学会では管内の法人を訪問し、実際に施設を見学しながら法人化の経緯や農場運営の工夫などを学びました。

第1回（7月23日）では水戸市の有照沼農園において、経営概況の紹介や経営規模拡大に伴う経理専任職員の採用、「農福連携」による労力確保と働きやすい作業環境改善について説明を受けました。また、水温管理を工夫した葉物類の水耕施設を見学しました。

第2回（8月21日）では小美玉市の保田花香園㈱において、観光農園の開園を契機に、将来の経営拡大を見込んで法人化に踏み切った経緯やECサイトによる集客方法について説明を受けました。また、ハウスを見学し、管理の自動化による省力化事例を見学しました。

参加者からは、税理士との関係や法人化に移行する際に期末時期を決めた理由、実際の節税効果など具体的な質疑も多く大変参考になった様子でした。



照沼農園での水耕施設見学の様子



保田花香園での花き施設見学の様子



CABYVによるメロン黄化症状の発生について

令和7年5月、施設栽培メロンにおいて、「Cucurbit aphid-borne yellows virus (CABYV)」による病害が県内で初確認されました。本病はウイルスによるもので、葉の一部もしくは全体に黄化症状を示し、さらに症状が進むと株全体の葉が黄化します。新芽や脇芽等の若い葉では時間が経ってから黄化が生じる場合があります。また、感染により落花が多くなるとの事例もあります。

本ウイルスは、アブラムシ類による媒介が報告されており、汁液伝染、種子伝染、土壤伝染や媒介虫の経卵伝染は確認されていません。

本病に適用のある農薬はないため、防除対策は、発病株の抜き取り・密封処理後の処分や、アブラムシ類の侵入・発生防止対策（0.8mm以下の防虫ネット展張や圃場周辺の除草、定植時の粒剤施用や生育期の薬剤のローテーション散布）を行いましょう。また、栽培終了後にハウスを密閉し媒介虫を死滅させる蒸しこみ処理等、防除の徹底をお願いします。



CABYVによるメロンの黄化症状

令和7年産水稻の振り返り

令和7年度の田植え～出穂期（5～7月）までの気象は、平年と比べ平均気温は2.6℃高く、日照時間は17%長く推移し、出穂期は平年と比べて3日早くなりました。登熟期間（8～9月）の気象は、平年と比べ平均気温は2.8℃高く、日照時間は34%長く、登熟期間は40日と、平年と比較して2日短くなりました。

生育は、草丈は平年に比べ長く、茎数は平年並～やや多く葉色は平年並で推移しました。収量構成要素は、一穂粒数は平年並であったものの、穂数がやや多かつたことから、m²あたり粒数は平年比16%多くなりました。登熟歩合は平年比-4%、千粒重は平年並となり、収量は583kg/10aと、平年と比較して10%多収になりました。

病害虫は昨年と同様に、イネカメムシ等の斑点米カムシ類の発生が多く見られました。イネカムシは、出穂期の吸汁加害で不稔被害を生じ、乳熟期の加害で斑点米を発生させます。

不稔被害の低減を目的とした防除は、出穂期～穂揃期に、斑点米被害の軽減を目的とした防除は、乳熟期（出穂期10～15日後）に実施しましょう。

近年、高温の年が続いており、玄米の品質が低下しています。高温対策として、「にじのきらめき」等の高温耐性品種の作付けが有効です。その他、適切な施肥設計や適期移植、病害虫防除等を実施し、高品質・多収栽培を目指しましょう。

表 管内定点ほ場（品種：コシヒカリ）の調査結果

地点	区分	出穂期 (月/日)	成熟期 (月/日)	区分	稈長 (cm)	穗長 (cm)	穗数 (本/m ²)	一穂粒数 (粒/穂)	m ² あたり粒数 (×100粒)	登熟歩合 (%)	千粒重 (g)	収量 (kg/10a)
茨城町 上石崎	R7 平年値	7/27 7/30	9/5 9/10	R7 平年比(%)	96 108	20 102	376 114	88 102	332 116	78 96	21.9 99	583 110

※ 気象（平均気温、日照時間）の平年値は、過去30年の平均値。出穂期、登熟期間および水稻の生育（草丈等）の平年値は、過去5年の平均値

※ 図1および図2は気象庁データより作成

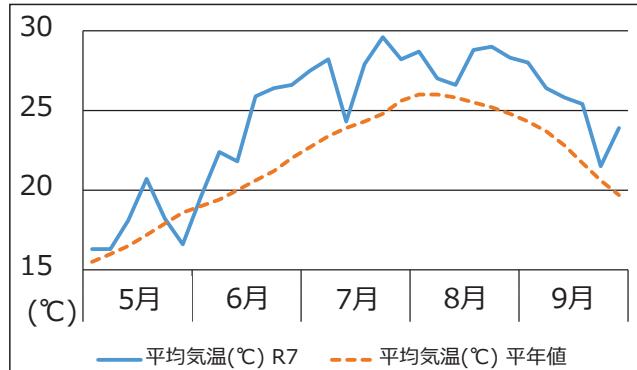


図1 R7 平均気温の推移（水戸市）

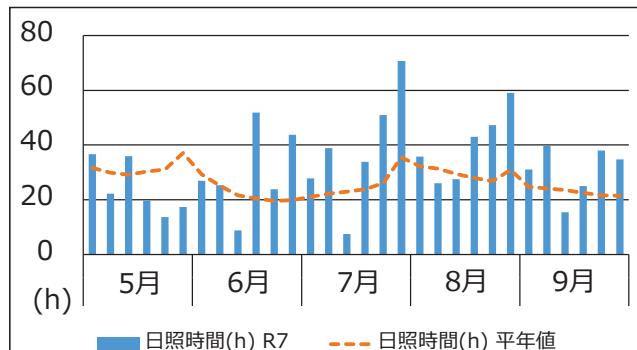


図2 R7 日照時間の推移（水戸市）



←水稻「コシヒカリ」の高温対策について

オオタバコガ等のチョウ目害虫にご注意を

令和7年は春先から気温が高く、夏は猛暑となり、例年以上に害虫等の発生が多い年となりました。当部門では、小ギクほ場でオオタバコガの発生予察を行い、防除に向けた情報提供を行ってきました。

今年の発生予察の結果は、過去3年と比較してもオオタバコガの発生は早く、捕獲頭数も多い状況が調査期間中続きました（図）。

発生のピークは5回ほどあり、特に9月以降の捕獲数が多い状況となりました。また、他チョウ目害虫のシロイチモジヨトウやヨトウムシの調査でも発生時期が早まっており、発生数も多い状況となっていました。

令和8年も、気温が高く推移するとチョウ目害虫の発生が増加することが予想されます。ほ場をよく確認し、適期防除に努めてください。

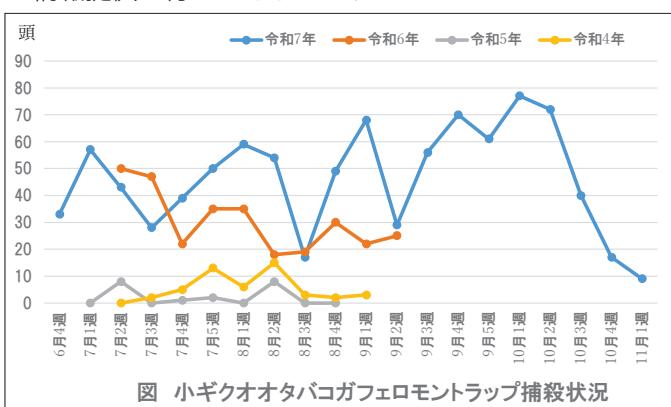


図 小ギクオオタバコガフェロモントラップ捕殺状況

小美玉市産れんこんの販売PRを行いました!



7月26日に東京都銀座にある茨城県アンテナショップ「IBARAKI sense」において、JA新ひたち野蓮根部会玉里支部・JA新ひたち野・小美玉市による「れんこん」の販売PRイベントが開催されました。IBARAKI senseで部会員が直接PRを行うのは今回が初めてです。

当日は、生産者が丹精を込めて生産したれんこんを都内の消費者に広く知っていただくため、部会役員が直接店頭に立ってれんこんの販売とPR活動を行いました。

購入された方を対象に、れんこんの重さ当てクイズや、お子様限定のガラポン抽選会など楽しいイベントも行われました。また、焼きれんこんを試食された来店者からは「こんなにシャキシャキで甘いれんこんは食べたことがない!」、「スーパーで販売されているれんこんと全然違う!」などの声が多数寄せられました。店頭ディスプレイ用に展示したれんこんの花や葉、掘り上げた状態のれんこんも好評で、多くの方に足を止めていただきました。

当部会では、今後も県内外のイベントへ出展し、小美玉市産れんこんの販売促進やPRをしていく予定であり、当部門も引き続き支援をしてまいります。



店頭ディスプレイ



販売用れんこん



店頭の様子

女性農業士と水戸農業高校生との交流会

11月6日に水戸農業高校において、高校生と水戸地域及び常陸太田地域の女性農業士の交流会が開催されました。当日は水戸地域から4名、常陸太田地域から3名の女性農業士が参加しました。

午前は食育を目的とした調理実習を行い、女性農業士が生産している食材を用いてクリームシチューなどの料理をつくり、会食しました。

午後は、女性農業士からは生産する農産物に関するクイズを出題し、学生からは「シャインマスカット栽培の普及で稻作農家所得倍増計画（後編）」と題した発表をしていただきました。学生からは、女性農業士や仲間と協力して料理することの楽しさや、クイズに正解できなかった悔しさなどの感想を聞くことができ、農産物や農業に携わることの魅力や理解促進を図ることができました。

当部門では、引き続き女性農業士活動を支援するとともに、女性農業者の育成を図ってまいります。



調理実習の様子

関東ブロックプロジェクト 実績発表会

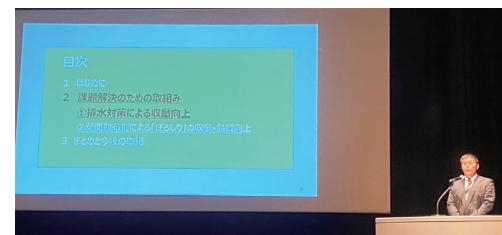
10月22日にソニックシティホール（埼玉県）において、「令和7年度関東ブロック農村青少年（4H）クラブプロジェクト実績発表会」が開催されました。

本大会は、関東ブロックの青年農業者が集い、プロジェクト活動の成果発表を通じて技術や経営能力の向上を図る場です。

プロジェクト発表の部では、茨城町4Hクラブの平本竜太氏が県代表の一人として、「困難に立ち向かえ！ばれいしょ安定生産技術の確立」と題して、大雨被害軽減やばれいしょの比重向上といった課題を解決するために取り組んだ排水対策プロジェクト活動の結果を発表しました。

惜しくも入賞は逃しましたが、その発表内容について「詳細を知りたい」等の声が寄せられ、他の県から多くの関心を集めました。

本発表会は、青年農業者同士の交流と良き研鑽の場となりました。



平本氏が発表している様子

乗用型トラクターで道路を走行する際のシートベルト着用義務化について

道路上における乗用型トラクターの死亡事故は転倒・転落によるものが多く、死亡・重症化のリスクを抑えるためにはシートベルトの着用が有効です。道路運送車両の保安基準改正により、令和9年1月1日から、乗用型トラクターで道路を走行する際には、シートベルト着用が義務化されます。



県HP